



スポーツ用服700着 カメルーンのために

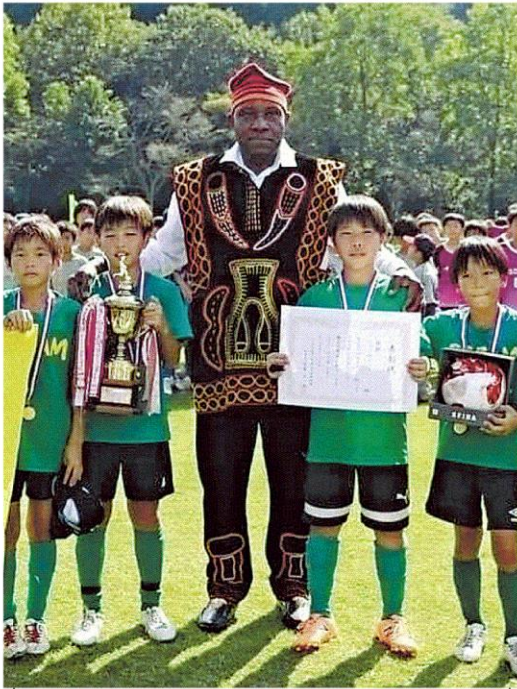
日田市中津江村

サッカー大会出場の小中学生ら寄贈

【日田】9月28、29日に日田市中津江村の鯛生スポーツセンターであった「第19回カメルーン杯中津江村ジュニアサッカー大会」で出場した小中学生らがユニホームなど計700着をカメルーンの子どもたちに向け寄贈した。県内外の小中学生約200人のほか、大分トリニータ、市も寄せ、大会に招いた同国のピエール・ゼンゲ駐日大使に贈った。

旧中津江村は2002年のサッカー・ワールドカップ（W杯）日韓大会で同国の事前キャンプ地となり、選手団の大遅刻や村民との心温まる交流が全国的な話題となった。

カメルーン杯はW杯イヤーの06年からスタートし、過去にはサッカーシューズを贈ったことも。今回、同国との交流をさらに深めようとスポーツウエアの寄付を募り、小学生が約300着、大分ト



ユニホームなどを寄せた子どもたちと記念写真を撮るピエール・ゼンゲカメルーン駐日大使（中央）＝日田市中津江村

駐日大使「子どもたち喜ぶ」

リニータがユニホームや練習着約300着、市がTシャツ約100着を持ち寄った。

山鹿FC（熊本県）の山口和真さん（10）は「家族や友達にも協力してもらって10着集めた。カメルーンのみんなで仲良く使ってほしい」と話した。

贈呈式で、大会を主催した中津江村地球財団の赤星仁一郎理事長から目録を受け取ったゼンゲ大使は「カメルーンの子どもたちは大喜びするだろう。本当にありがとう」と謝辞を述べた。（刀根徹朗）



寄贈するユニホームを赤星仁一郎理事長（右端）に手渡す小中学生ら



〔問①〕 日田市中津江村であったサッカー大会で、出場した小学生らがカメルーンの子どもたちに寄贈したユニホームなどのスポーツ用服は何着ですか。

〔問②〕 同村がカメルーンと交流をもつきっかけになった2002年のサッカーワールドカップは何大会ですか。

〔問③〕 カメルーンという国について、調べてみよう。